

目次

9章 単純形副詞（およびその関連表現）

10章 形容詞

1. 形容詞等を並べる順 2
2. any, every, each, all の使い分け 4
3. a few, few に関して 9
4. 形容詞に関する諸注意 12
 - ・ high, low や large, small などの使い分けについて 12
 - ・ worth の用法 13
 - ・ 叙述用法の形容詞などが行為を表す例 14
 - ・ pleasant は vt 由来の、-ing が付かない形容詞であり、vt の現在分詞に相当する。 15
 - ・ 叙述用法の形容詞の最上級の前には the を置かない。 15
 - ・ 「the + 形容詞」について 16

11章 形容詞相当名詞（形容詞的名詞） = 名詞の形容詞への転用 および ハイフンワード

12章 代名詞

1. 代名詞が指すもの 2
 - ・ 「人称代名詞」と「指示代名詞」の区別 4
 - ・ 時間・距離・天候・気温・明暗等を表す it、形式主語・形式目的語を表す it、「漠然とした状況を表す」ための it、
文法的体裁を整えるための it など 5
 - ・ 前出の人を受けるのではなく、一般の人のことを表したり、当局や担当の人たちを表す they 5
 - ・ 「一般の人」を表す he, she 5
 - ・ it や one を使えない例 6
 - ・ one は不可算名詞を受けることはできません。 6
 - ・ 会話をしている当事者を指すのに he, she, they は用いません。 8
 - ・ 人を指す it について 8
 - ・ she が受けることのできる名詞 9
2. これから述べること（後方照応）について 9
 - ・ 「これから述べること」を指す this, these について 10
3. 代名詞に関するその他の注意点 10
 - 3-1. 形容詞と同じかたちの代名詞 10
 - 3-2. 副詞にもなる all と each と both 12
 - 3-3. 一般の人を表す代名詞 13
 - ・ you と we について 13
 - ・ one, people, they について 14
 - 3-4. someone, somebody の「ひとかどの人物」の訳例について 15
 - 3-5. 疑問代名詞（who, what, which）は常に単数扱い 17
 - 3-6. 人称代名詞と関係代名詞 18
 - 3-7. 性別不明かつ単数扱いの一般人を受ける代名詞 18
 - 3-8. 前者・後者 21
 - 3-9. each other と one another 22

- 3-10. 代名詞の格 23
- 3-11. 文法的整合性をとるために置く代名詞 23
- 3-12. 代名詞を並べる順 23
- 3-13. 動名詞の意味上の主語について 24

13章 配分単数

14章 関係代名詞

- 1. 関係代名詞の制限用法（限定用法）と非制限用法（非限定用法）について 3
 - 1-1. 序論 3
 - 1-2. 「継続用法」という文法用語、および訳の仕方について 5
 - 1-3. 非制限用法についての要点整理 8 ・ 同格表現において 14
 - 1-4. 関係代名詞の代りに現在分詞を用いる表現法について 15
 - 1-5. 代名詞と関係代名詞 18
 - 1-6. 所有格・指示形容詞と関係代名詞 19
 - 1-7. 物質名詞等と関係代名詞 20
 - 1-8. 抽象名詞と関係代名詞 21
 - 1-9. 固有名詞と関係代名詞 23
- 2. 冠詞と関係代名詞 24 ・ 「関係代名詞+be-動詞・be-助動詞」の省略 26
 - ・ a か the か 27
 - ・ 強調のための the について 29
 - ・ 複数形の先行詞 32
 - ・ 参考 — 冠詞について 34
- 3. 関係代名詞の who が使えない例 36
- 4. 関係形容詞 37 ・ whose との違い 38
 - ・ 関係形容詞の what, whatever, whichever 39
 - ・ whose に関して 40
 - ・ 付帯状況を表す with 以下の処理について 42
- 5. 関係代名詞がそれに変わる前はどこに位置していたものなのか 45
- 6. 連鎖関係詞節 47
- 7. 二重限定 49
- 8. 関係代名詞の単複、及び単数扱いの疑問代名詞 50
- 9. 疑似関係代名詞 52 ・ as について 52
 - 非制限用法の例 52
 - 制限用法の例 54
 - as many [much] (名詞) as ... 54
 - the same ... as ... 55
 - such ... as ... 55
 - as ... as ... 55
 - ・ than について 55
 - ・ but について 56

10. その他	56	・ 関係代名詞のあとに形式主語を置く例	56
		・ A is to B what C is to D. の構文について	57
15章		関係副詞	
16章		対等要素を並べる（並列法）	
17章		as ... as 構文について	
18章		more than の関連表現	
19章		but と and の使い分けの例（逆接か順接か）	
20章		名詞の意味を限定する as や譲歩を表す as などについて	
21章		unless	
22章		コロン・セミコロン・ダッシュ・スラッシュ・コンマ	
23章		接続詞に関するその他の注意点	
24章		分詞構文	
25章		倒置	
1. 何のために倒置させるのか	2		
① 結論を早く言う。	2		
② 前出した内容（＝旧情報）を文頭で受ける。	2		
③ 強調する。	3		
④ 文を簡潔にする。	3		
・簡単に覚えられる重要なパターンのまとめ	3		
2. 否定語（句）＋倒置文	3		
3. 補語＋倒置文	6		
4. 目的語＋SV	7		
5. 副詞（句）＋倒置文	7		
6. is so ... that ..., is such ... that ... の強意形は、So [Such]＋倒置文	9		
7. 「so＋倒置文」と「so＋SV」	10		
8. 仮定法の倒置文	11		
9. 譲歩を表す倒置文と命令形の文	11		
10. その他	12		
・ SVOC の文型で、目的語が長いときには SVCO の語順を採ります。	12		
・ 副詞句は本来の位置からはずれて、文頭の方の上ってくるがよくあります。	13		

- ・ 感嘆文でも倒置することがあります。 13
- ・ as, than 以下でも倒置することがあります。 13
- ・ 「the 比較級 ..., the 比較級....」での倒置 13
- ・ 主節を挿入や後置して逆順になることはよくあります。 14

26章 前置詞

1. 前置詞の目的語となり得るものの品詞・種類
 - ① 普通名詞・物質名詞・抽象名詞 2 ② 代名詞 2 ③ 動名詞 2 ④ 副詞 3
 - ⑤ 形容詞・分詞 4 ⑥ 不定詞・原形不定詞(動詞) 4 ⑦ 句 4 ⑧ 節 4
2. of について 7
 - 2-1. 主格関係と目的格関係 7
 - 2-2. 同格関係 8
 - 2-3. about の意の例 9
 - 2-4. out of の意の例 10
 - 2-5. 「～から」= from ではない 11
 - 2-6. 分離・隔離の of の例 13
 - 2-7. 「of+抽象名詞」をつくる of 15
3. 二重所有格、および主格関係と目的格関係を表す of について 16
 - 3-1. 所有格と of について 16
 - 3-2. 二重所有格 18
 - 3-3. 主格関係と目的格関係 19
 - 3-4. change of ... と change in ... の違いについて (「全体」か「一部」か) 22
 - 3-5. 属性を表す of について 24
4. on について 25
5. off について 30
6. 動的な意味合いをもつ前置詞句(主に「vt+目的語」の後に置く例について) 31
7. 結果を表す前置詞 to, into, with, without 32
8. 到達点を表す to と、方向を表す for, toward, at 35
9. between と among 35
10. 「今から～の後に」と言う場合の in 37
11. in と for あるいは during の違いについて 39
12. 「期間」を表す over について 42
13. 時を表す from について (since については23-2を参照) 43
14. by, before, until / till 44
15. 前置詞が示す範囲(主に「時」を表す前置詞について) 45
16. but 46
17. anything but ... と nothing but ... について 47
18. but と except の違い 47
19. except と except for 48
20. besides, apart from 49
21. 比較に使う over と above など 50
22. for と against 50

- 23. through 50
- 24. 前置詞の省略 51
- 25. 前置詞句の挿入（あるいは本来の位置からの移動）について 53
- 26. その他 54 「about と on の違いについて」「by の後の冠詞について」など

27章 英語、そして日本語

- 1. 母語の学習と外国語の学習 2
- 2. 世界の言語の文法形態と日本語の文法形態 20
- 3. 日本語語彙の変遷 21
- 4. 日本語と英語の造語のしかた 24
 - 和語から漢字へ 25
 - 漢字 —— 日本語の漢字の同音語 29
 - 漢字 —— 中国語と日本語における漢字の違い 32

28章 「ら」抜き言葉について：言葉の変化について考えるための一助として

The children swam **naked** in the lake. ※ **nakedly** は、形容詞・分詞・副詞を修飾するときに主に用います。

nakedly self-interested politicians (私利私欲むき出しの政治家たち)

Though almost a quarter of children still leave school **unable** to read or write properly, the drive to improve literacy has pushed up standards.

※ Most of the children in developing countries grow up **unable** to read and write. では、grow up の後ろなので、結果を表す不定詞 (to be) unable to read and write の to be が略されています。「大人になっても読み書きができない」ということです。

また、「読むことも書くこともできない」わけだから unable の否定性と呼応して、**unable to read or write** がベターと筆者は考えます。しかし read and write を一体・一連の行為ととらえるなら **unable to read and write** も間違いではないでしょう。このことは without を使うときも同じです。

また、限定性を強く言うのであれば Most of **the** children in developing countries もあながち間違いとは言えませんが、Most children in developing countries の方がすっきりします。広範かつ多数の子供についてのことなので、強く限定するには少し無理があるからです。他方、Most of **the** children **in her class**... のように限定性が自然に感じられる例なら、the によって限定するのに無理はありません。→ 26-17, 12-12

名詞を用いた次のような例もなかなか面白いものです。as などの「前置詞の省略」で説明がつくものもありますが、文法的には破格であって説明がつかないものもあります。しかし、直截的かつ簡単明瞭で便利なために、慣用的によく用いられています。

It matters **nothing** to me. ※ matter は vi です。 send a letter (by) **air mail** send a letter (by) **express** (速達で)

work **part-time [full-time, a full eight-hour day]** (パートで [常勤で、1日8時間をフルに] 働く)

travel **second class** The couple parted (as) **friends**. I got it **a bargain**. fry eggs **sunny side up**

He ate the fish, **bones and all**. He lived and died **a bachelor**. I didn't sleep **a wink** last night. (ゆうべは一睡もしなかった。)

unable to say word **one** (一言も口を挟めない) Turn it **face down**. (裏返しにしないで) turn a card **face up** (トランプ札を見せる)

I'll visit him **(the) first thing** when I arrive there. I accept it, **rind and heart**. (それを丸ごと受け入れよう。)

He goes **heart and soul** into anything he puts his hand to. (彼は物事に熱中するたちだ。)

※ これは with his heart and soul の省略形ですが、with all my heart では with はふつう省きません。

After four years of teaching **high school**, she returned to graduate studies.... (teach **school** = teach in [at] a school)

The accused left the court **a free man**. = The accused walked **free**. (被告は青天白日の身となって法廷を去った。)

Don't think I'm going to wait on you **hand and foot**! (私が何から何まであなたの世話をするとは思わないでくれ。)

We can't have it **both ways**: you can't have the lowest income taxes in Europe, the best hospitals and schools and cheap petrol too.

You can do it **both ways**. (それは両方のやり方でやれる。) He learned German **the hard way**. (彼はドイツ語を苦勞して学んだ。)

Many of the deals were made **backstage** at the convention. (取引の多くがその会議で密約された。)

She was born in Lisbon in 1958, **one of four daughters**.

※ Bill Clinton was the unlikeliest president of the last century, **a poor white southern boy who seemed destined to go nowhere**.

の例は、the unlikeliest president と同格というのではなく、..., since [because] he was born a poor white southern boy who....

の being を略したかたちの分詞構文と考えられます。しかし例えば Ourselves, **being** at a loss for words, we lapsed into silence.

のような being を残したままの分詞構文を目にすることはそうないので、..., **a poor white southern boy**.... の例も分詞構文と

は気がつきにくいかもしれません。文法分析にさほど興味が無い方は、「状況や理由を説明するのに名詞をそのまま用いることがある」というように、大雑把な捉え方をしてもいいでしょう。

これまでに挙げたような表現の一部は分詞構文にもできます。

Decaf coffees are functionally nearly **caffeine-free**. the government's economic **decision-making**

※ an **air-conditioner** = an **air conditioner** = an **airconditioner** のような例もあります。

次のような創作も自由です。

Palmer owes this reviewer about three hours of sleep reading this **can't-put-it-downer**.

(広告：読み出したらやめられないこの本のおかげで、著者パーマーは批評家の私を3時間しか眠らせてくれなかった。)

※「この本が面白すぎて3時間しか眠れなかったことに対してパーマーは私に借りがある」を意識したもの。

ハイフンで繋いだ語が最も頻繁に用いられるのは、他の名詞を修飾するときです。

a **half-melted** snowman **double-malt** whiskey a **middle-class** society a **long-term** effect **at-a-glance** guide
 a **how-to** book on cooking **full-time** employment **step-by-step** instructions a **cross-cultural** survey
 a **high-school** math teacher **two-and-a-half** percent of the national population the offshore **oil-and-gas** industry
 a **serious-looking** girl in glasses (眼鏡をかけた真面目そうな少女) **easy-to-follow** installation instructions (やさしい取扱説明書)
 a **no-nonsense** attitude (浮ついたところのない態度、まじめな態度) a **no-nonsense** teacher (ふざけることを許さない先生)
 a **sewing-machine** guide (ミシンの糸道) **problem-solving** skills (問題解決の技術) a **jumping-off** point for ... (〜の出発点)
 a **left-wing** activist (左翼の活動家) our **taken-for-granted** shared community (我々の当然のごとき地域共同社会)
ever-increasing expectancy (いや増す期待) a **best-selling** author a **one-parent [single-parent]** household (片親の家庭)
 We had a **heart-to-heart** talk about his poor attendance. (出席率の悪さについて彼と率直に話し合った。)
 have an **equal-employment-opportunity** rider (就職の機会均等をうたった付帯条項がついている)
 an **on-line real-time** system ※ an **online** printer のように、ハイフンを入れないこともあります。
hearing-impaired persons (難聴者) **lower-quality** convenience items (低品質のお手軽商品)
 a **heavy-sounding** voice (だるそうな声) in her soft, **young-sounding** voice (もの静かな若々しい声で)
 a **high-sounding** name (偉そうな名前) an **ill-sounding** name (響きのよくない名前)
 a **suspicious-sounding get-rich-quick** proposal (うさん臭いもうけ話) **suspicious-looking** ships (怪しい船)
sweet-smelling flowers a journal of **first- or second-rate** importance (一流または二流の新聞)
 This is the company which runs **the international long-distance phone** monopoly. (国際長距離電話事業を独占的に経営している会社)
jumping-on-a-chair-at-the-sight-of-a-mouse era (ネズミを見ては椅子に飛び上がっていた頃)
 the 82 homes on the market in the **\$300,000-to-&500,000** price range ※ この例では必ずしもハイフンでつなぐ必要はありません。
 Oil prices stabilized in the **15-to-17-dollars-a-barrel** range. (1バレル15ドルから17ドルの範囲で安定していた)
 ※ 次の例のように、必ずしも全部をハイフンでつなぐ必要はありません。
 in the 30 to 80 percent range in the **four- to five-pound** range

他の名詞を修飾するとき、ハイフンで繋ぐ要素は、**a parent-teacher association**「PTA」や **an eleven-year-old boy** のように、単数形で表します。(このことは前頁で述べたこととも通底します。)

※ したがって、たとえば a parent-teacher conference は、個人的な面談から大きな会議までをも表します。(conference からは大きな会議をイメージしがちですが、a conference between a student and his adviser「学生と指導教官との話し合い」のような例もあります。)

It's a **five-minute** run to the station. (駅まで走って5分だ。)

cf. **Five minutes'** exposure means frostbite. (5分間も外気にさらしたら凍傷になる。)

a **four-penny** stamp (4ペニー切手) a **65,000-ton** luxury vessel (65,000トンの豪華客船)

this **13-chapter** book (13章からなるこの本) **eight-hour** labor a **ten-pound** baby (体重が10ポンドの赤ん坊)

reach the **million-dollar** mark (100万ドル台に達する) a pipe of **three-inch** caliber (内径3インチのパイプ)

As tired as **she** was, sleep did not come to **the frightened girl**.

(そのおびえきった女の子は疲れてはいたが、なかなか寝つかれなかった。) → As tired as **she** was については 20-2

After **he** woke up, **John** went to town. = After **John** woke up, **he** went to town.

※ このように代名詞の方が先に出る例は決して珍しいものではありませんが、『ジーニアス英和大辞典』ではこの例について次のように述べています。

he か John のいずれかに対照強勢を置くと he と John は別の人物を指す。

従節が後に来る場合後方照応は不可: × *He* went to town after *John* woke up. (he = John の場合)

/ *John* went to town after *he* woke up. 以上のことは she, they, it にもいえる。

○ **The pitcher** left the mound **after he** gave up a home run.

○ **After he** gave up a home run, **the pitcher** left the mound.

※ after を強調しないのなら、The pitcher gave up a home run **and** left the mound. が自然。

× **He** left the mound **after the pitcher** gave up a home run.

次の2例の it もこの用法です。(前頁の最後にも1例挙げています。)

If you can find **it** in the room, bring me the new stapler. I didn't know **it** then, but he does not have a great capacity for drink.

「これから述べること」を指す **this, these** について

日本語でも例えば、「これが最後の忠告だ。いいか、その件には関わらな」と言うのと同じで、**this, these** も、しばしば「これから述べること」を指します。

Listen to **this!** I heard Ueda is being posted to Paris! (聞いて聞いて。上田さんバりに転勤ですって。)

I'm telling you **this** for your own good: break up with her. (悪いことは言わないから、彼女とは別れる。)

What it amounts to is **this, that he was defeated**. (つまり彼の方が負けたということだ。)

My philosophy is **this**: live for today, for tomorrow may not come.

(私の人生哲学はこうです。今日を精一杯生きよ。なぜなら、明日という日は来ないかもしれないのだから。)

This is a dangerous logic to follow: literacy is good, illiteracy is bad; literates are good, illiterates are bad.

At the same time, and **this** is a fact of the greatest significance, the economy of Europe was becoming capitalistic, which meant that...

Among the other special human abilities that memory makes possible, none is more important than **this**: if we are to achieve some understanding of ourselves and our lives, we need to be able to recall past experiences.

The conclusions to which the evidence points, in brief, are **these**. In all societies, more money for the individual typically means more individual happiness. However, raising the incomes of all does not increase the happiness of all.

that にはこのような用法はありませんが、関係詞節と呼応するときに限って似たような働きをすることがあります。

This work displays **that** distinctive quality for which he is known. (この作品には彼独特の持ち味が出ている。)

3. 代名詞に関するその他の注意点

3-1. 形容詞と同じかたちの代名詞

some や this, that などが形容詞でもあり代名詞でもあるのと同様に、例えば many, much, few, little, most 等々の形容詞のほとんどには、代名詞としての用法があります。(Buy American. 「米国製の品を買おう」の例でも、形容詞の後ろのわかりきった名詞を省いた結果として形容詞が名詞のように見えますが、上のような代名詞の発生と定着の経緯も、これと同じようなものでしょう。)

他にも、She sang a song *bearing* the title I didn't [don't] know. の例のような、現在分詞を使う手法などがあります。

付帯状況を表す with 以下の処理について (この項は、関係詞との関連性はさほどありません。)

with 以下の処理の仕方についてですが、一般的には「with+(限定辞)+(分詞・形容詞)+名詞」の語順です。

with *streaming* eyes The driver escaped with a *broken* knee.

長い修飾句になると後置します。

with a pulse *running at 100 or so* (脈拍は100ほど)

Both these trends have flattened out in recent years, with the rate *increasing slightly in 1999 and 2000*.

July to September is very humid with temperatures *soaring to 88°F (33°C)*.

ここまでは修飾語の前置・後置の基本ルール通りですが、例外もあります。分詞等が一語であっても前置きでは違和感があるときや、「付帯状況」の感じを少し強めに出したいときはそれを後置させます。例えば with *increasing demand* ではなく with *demand increasing* 「需要が増えて」としたり、He looked for a car with an engine *running*. としたりするのはそのためです。(…with a *running* engine. が間違いというわけではありません。)

※ 後者の例(原文のまま)の冠詞についてですが、a car のエンジンは一基に特定されるので、an engine ではなく the engine の方が適切です。話題提示の紹介文として、さらに an engine とすることもありますが、ここは the engine の方がベターです。

このような「with+名詞+補語」のかたちは、「関係代名詞+be-動詞・be-助動詞」の省略と考えることができます。

上の例は … with the engine that was running. のことですが、このような例では、分詞等の叙事的性格が強いわけです。

(1-27 も参照ください。)

また別の理屈付けとして、前置詞 with の目的語は動名詞の *running* で、the engine はその意味上の主語であるという考え方もできます。いずれの考え方を採るにせよ、「with+(限定辞)+(分詞・形容詞)+名詞」の場合よりも、付帯的な状況を述べる性格は強くなります。例えば with the remaining stretch *completed* 「残りの区間が完成して」の方が、with the *completed* remaining stretch とするよりもはるかに自然ですし、with a hot shower *running* 「熱いシャワーを出しっぱなしにして」を with a *running* hot shower とするのには筆者はかなり抵抗があります。(ただし逆に、a room with *running* water 「水道の引いてある部屋」は a room with water *running* としてしまうと、「水が止まらない部屋」と解釈されるでしょう。)

下の例では、前者が辞書にある例ですが、cf. の例も誤りではありません。

with prices generally decreasing cf. with generally decreasing prices

with the number of options diminishing cf. with the diminishing number of options

with his business failing cf. with his failing business

with five minutes remaining cf. with remaining five minutes

a bust with the nose broken off (鼻の欠けた胸像) cf. a bust with the broken-off nose

ただし with *streaming* eyes のような単純な例を with eyes *streaming* とすることはあまりありません。

increasing を用いた例を見てみましょう。まずは前置させた例です。

with *increasing* frequency with *increasing* temperature with *increasing* force with *increasing* age

with *increasing* intensity with *increasing* severity with *increasing* attention with *increasing* numbers of foreign tourists

このような単純な例でも、even with *personnel increasing* 「人出が増えても～」のように後置させることもありますが、全体から言えば少数です。しかし、with 以下の事実上の主語が比較的長い場合には、例えば with *costs of production increasing* のように後置させることも多くなります。

また、with 以下に事実上の SV 関係が複数あって and でつなぐときにも、後置させることが多いようです。

with traffic accidents *increasing* and air pollution *worsening*

With his debts *increasing* and his products *not selling*, he has no way out.

ある」としています。次のような例がそれです。

As tired as she was, sleep did not come to the frightened girl.

(そのおびえきった女の子は疲れてはいたが、なかなか寝つかれなかった。)

As much as we need the funds, I refused to accept money gained by such means. (資金が欲しいのはやまやまだが、～)

命令形で「譲歩」を表すこともあります。as や may があるとそれとわかりやすいのですが、それらが無いこともよくあります。 **Be it ever so humble**, there's no place like home. = However [No matter how] humble it may be, there's no ...

例えば、**Let others say what they will**, I always speak the truth. は命令文のままに「人には何とでも言わせておけ」でも訳せますが、転じて「他人が何と言おうとも」と譲歩でも訳せます。英語とは離れて日本語で考えてみても、例えば「どこへでも行け、私はもう知らぬ」は、「お前がどこへ行こうとも、私はもう知らぬ」とほぼ同意です。このような例から、(英文に限らず) 命令文が譲歩を表しやすいことは容易に理解ができます。

You're going to take on this job, **like it or not**. (君には、好むと好まざるとに関係なくこの仕事をしてもらう。)

Say what you will [like, want], I still think it's a good idea. (君が何と言おうとも、～)

Come what may, he will not change his mind. (たとえ何があっても、～)

Go where you like, and I'll follow you. (あなたがどこへ行こうと、私はついて行く。)

If it takes time, **so be it**, but the sooner the better. (遅くても構わないが、早ければ早いほどよい。)

Be the matter what it may, always speak the truth. (何事であろうとも常に真実を語れ。)

I couldn't read it, **try as** I would. (それを読もうとどんなに頑張っても読めなかった。)

Try as she would, she could not remember a word of what he said. (どんなに思い出そうとしても、～)

Try as they might, they were unable to trump up a convincing case against him.

(やっきになってやってみたが、彼を追いつめる説得力ある論拠をでっち上げることはできなかった。)

The parent birds defend their young with admirable fearlessness against every danger, **be it rain, wind, hail, the rays of the sun, the cold, or any live enemy**. (それが雨であれ風であれ……)

※ 「譲歩」とは、広辞苑によれば、本来は『「道をゆずって他人を先に行かせること』。転じて『自分の主張や意見をひっこめて他の説に従うこと』ですが、英文法においては、「～だが、～ではあるが、たとえ～だとしても」等々の意を表すときに「譲歩」を表すとされています。特に定義されることもないままにそうなっているのですが、例えば「たとえ何が起ろうとも必ず明日ここに来なさい」という文を考えてみると、これは「まったく譲歩しない条件」を提示するものであって、「譲歩」とは正反対ではないかと筆者は思っています。もっともまともな名称はないものかと思いますが、英文法での「譲歩」は、このような厳しく重い条件を課すものから、**Be that as it may**, 「それはともかく」といった軽いものまで幅広く含みます。(この例はまた「(それが) そうであったとしても」といった強めの訳もできます。文脈しだいです。)

名詞の意味を限定する as

この用法は極めて頻繁に用いられています。(例えば ... as we know it で検索してただけで数多くの例がヒットします。)しかし、日本人の中で、この用法をよく理解し使いこなしている人の割合はかなり低いと筆者はみています。

この as は積極的に訳すことは普通はしませんが、多義である as に加えて「訳さない as」もあるのは厄介ではあります。

I'm content with my life **as it is**. 「今の(あるがままの)生活に満足している」

Japan **as it was [as it used to be]** (以前の日本) Japan **as it [she] will be** (未来の日本)

..., they tend to present the world **as it is seen**, rather than **as it is felt**. (感じられる世界ではなく、見ることのできる世界を)

Japan **as it appears to foreign eyes** = Japan **as outsiders see it** (外国人の目に映る日本) the American way of life **as I know it**

21. 比較に使う over と above など

比較と言えば **than** をすぐに思い浮かべますが、**than** は前出する比較級と呼応するかたちでしか用いることはできません。ただし、**rather than** や **no other choice than...** は例外です。(とは言え **rather** にもちゃんと **-er** が入っていて、比較の意味合いもあります。**other** には比較の意味合いは感じませんが、やはり **-er** が入っているために **than** との相性がいいのかもしれませんが。)

次のような例では、意味の上では「比較」をしていますが、**than** を用いることはできません。 → 18-12

Why do we admire people who choose spending time with their own children **over** spending time at work?

This problem deserves priority **over** any other. preference of health **over** [to] wealth

Cambridge gained a long [narrow] lead **over** Oxford. These are some marked improvements **over** the original edition.

I'll take beer **above** wine. (ワインよりもビールがいい。) prize security **above** all else (何よりも安全を重んじる)

This camera is **a notch above** the other. = ... is better than the other.

a profit **over and above** what they had anticipated (彼らが予測していた以上の利益) Sales are 5% down **on** last week's.

We put freedom **before** wealth. (富よりも自由を重んじる。)

They would choose freedom **before** fame. I would do anything **before** that. (何でもするがそれだけは嫌だ。)

※ 接続詞にもこの意があります。I would die **before** I would give in. (降伏するぐらいなら、死んだほうがました。)

22. for と against

for, **against** が名詞となるのは稀ですが、**for** and **against** は「賛成と反対」です。その意の前置詞もよく知られています。

Are you **for** or **against** me? Some people were **for** the war and others were **against** it.

They strong-armed me into voting **for** the plan. (彼らは、私を脅してその計画に賛成票を投じるよう強要した。)

He argued **against** capital punishment. (彼は死刑反対論を述べた。)

ただし This new vaccine is **effective against** the virus. は「ウイルスに対して有効」だということです。**for** に代えてもそれは同じです。Penicillin is **effective for** [against] gonorrhoea. 「ペニシリンは淋病に効果がある」では、**against** の方が強意的です。攻撃対象ではないものに **against** を用いることはできません。

not very **effective for** hypertensive patients The ointment is **effective for** relief of muscle pain.

23. through

日本人は **through** をそれこそスルーしがちですが、これも重要な前置詞です。

「原因・理由」を表す例です。

die **through** carelessness (不注意のために命を落とす) He failed **through** laziness, not stupidity.

through failure of heirs (後継者がいなかったために)

The experiment failed **through** no fault of my own. (私が悪いわけでもないのに実験は失敗した。)

The show will soon fold **through** lack of patronage. (その芝居は不入りのためにすぐに打ち切りとなる。)

He became a historian **through** his uncle being one. (おじが歴史家だったので彼も歴史家になった。)

Through chemical imbalances, brain function can become distorted, causing certain violent or criminal behaviors.

(化学的不均衡によって脳の機能は乱れ、それが暴力的行為や犯罪を引き起すこともあり得る。)

「手段」や「媒介」を表す例です。

through the front door (公明正大な手段によって) 「正々堂々と正面玄関から」から転じて cf. **through** the back door

I obtained my position **through** a friend. (友人の世話で今の地位を得た。)

beautify life **through** [with] art (芸術で人生を豊かにする) book **through** a travel agent (旅行業者を通じて予約する)